



【歩いて登下校のメリット】

- 1 脚力・体力がつく。
片道1kmを歩くとしたら1日往復で2km。登校日200日なら1年間で400km。3年間なら1,200km。(鹿児島～東京間の直線距離：約1,000km)歩くだけで自然と体力が備わる。
- 2 忍耐力・持久力が備わる。
雨が降っても風が吹いても、自分の足で一步一步前に進まなければ学校に着きません。自然と我慢する力、忍耐力や持久力がつく。
- 3 挨拶で地域とつながる。
登下校中、会った人と挨拶ができます。挨拶を交わすことでコミュニケーションもとれるようになり、顔も覚えてもらえる。その人が安全見守り人となる。
- 4 感性が育ちます。
歩くことで四季の移り変わりを肌で感じるができる。
- 5 学習前に体を温める。
歩いて登校することによって足の裏から全身が温もり、血液が循環して脳に十分な栄養も補給され活発に働くようになる。学習が始まる前に体を動かすことは、脳によい影響を及ぼす。



まぶの窓おの庭

『子どもたちの成長をめざした』
登下校のあり方

No.53

大崎中学校 校長 安藤 晋哉

本町では3年前からPTAと連携し、「歩いて登下校」の取組を町内小・中学校で展開しています。本校でも、このことを踏まえて「決められた通学方法で登校する」ように訴えているところです。

世の中が便利になり、家庭に自動車がある時代。子どもが家を出るのが遅くなり送ってほしいとせがまれると、つつい送ってしまうことがあるでしょう。しかし、今の子どもたちは、日常生活で運動する機会が減っており、体力低下が指摘され、研究校等の成果から体力と学力の相関関係があると言われていいます。これらを考え合わせると、今の時期に運動、特に歩く(自転車をこぐ)機会をムダにすることはもったいないと感じます。

そこで、もう一度地域全体で子どもの健全育成をめざすために、決められた通学方法で登下校することを本気で取り組んでみませんか。

もし、登下校の安全が気になれば、各学校のコミュニティ・スクールと連携し、安全・安心な環境、地域全体で見守るしくみをつくり、大崎の宝である子どもたちを育てていきませんか。

子どものみなさんは、「きつい・面倒・だるい」という弱い気持ちに負けず、心身のよりよい成長のために、決められた通学方法での登下校にチャレンジしてほしいです。

これからだんだん寒くなりますが、本町の子どもや学校、地域住民が本気で取り組み、子どもたちのよりよい成長を実現させていきましょう。

※なお、体調を崩したり、ケガしたり、やむを得ない事情で送迎する場合は、その限りではないと考えています。